

## 一生懸命

一生懸命という言葉は、私は好きな言葉の一つである。まさに汗、誠実、手作りなどの単語を連想させるこの言葉は私にとって美德とも言える。額に汗して、自分の信じる事を継続する、それは崇高な行為だと勝手に思っている。

努力すれば報われる。これは親が私に繰り返し言ってくれた言葉であった。そしてこの言葉は義理の親父がもっとも好きな言葉であり、私と義父との距離を縮めた考え方でもあった。義父は一生懸命働いて、自分の会社を持った努力の人である。

筆者はこの価値観は万人に共通のものだと数年前まで信じていた。しかし、多くの途上国体験で、その価値観は一部の人の物だという事を体感し、ショックを覚えた。そして自分がいかにその価値観に縛られているかも理解してしまった。

また一生懸命である事を他人に強要することは欺瞞である事も知った。つまり一生懸命にする事は内発的な行為では快感であるが、外発的だとそれは負担以外の何者でもないのである。一生懸命は下手をすると押し付け以外の何物でもない・・・これでは困る。

先日、NHKの国際放送でライブドア問題の特集する番組を紹介した。ライブドア問題自体は国策捜査だと個人的に認識しており、あまり興味はないが、昨今、渦中の人となっているホリエモンの一言に驚きを隠せなかった。

「僕は努力して儲けるのは嫌いです。一生懸命努力して額に汗を浮かべて働くより、楽をしてお金持ちになりたい」こう述べているホリエモンは多分正直な人なのであろう。そしてその事を身を持って実践した人なのと思う。

個人の行為の評価はさておき、筆者が驚くのは「彼が楽をして金持ちになった」事実自体にある。そういった事が可能なのか、そういった社会は健全なのか。筆者のような古い価値観の人間は、淘汰されていく存在なのであろうか。。今の世の中は本当に白黒付けにくい。

一生懸命、、、筆者が働くタイではあまり見かけない行為である。一生懸命に出来ない、しないなにかの理由がその背景にはある。物事には必ず理由があり、そしてその事を容認するような歴史がある。多様な価値観を尊重しようと頭では分かっているのだが納得いかない。。

もし一生懸命が他の調和を乱す行為だとしたら。。。やはり努力は隠れてやる、という事が一番必要なのであろうか。日本において一生懸命が美德であった時代は幸せだったのかもしれないとふと思うこの頃であった。

文責 平山